

岐阜県リニア中央新幹線活用戦略

県、県内全市町村、観光団体、産業経済団体、有識者からなる「**岐阜県リニア中央新幹線活用戦略研究会**」では、リニア中央新幹線の開業効果を県内全域に最大限に波及させ、岐阜県の地域づくりを戦略的に進めていくため、平成26年3月に「**岐阜県リニア中央新幹線活用戦略**」を策定しました。



岐阜県とリニア中央新幹線

リニア岐阜県駅

中津川市千旦林に設置される地上駅。
JR中央本線の美乃坂本駅に近接して設置されます。
ノンストップの場合、東京へは34分、名古屋へは13分と試算されています。

中部車両基地（工場）

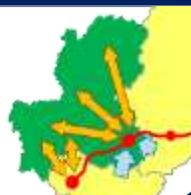
沿線で2か所設置される車両基地のうち、唯一工場が付帯しています。



戦略の視点

1 広域的に効果を波及

- 既存の交通ネットワークとの連携や再構築、交通隘路の克服を進め、「岐阜県の東の新しい玄関口」リニア岐阜県駅の県内アクセス圏域を拡大
- 名古屋市ターミナル駅の活用も視野
- リニア岐阜県駅に近い愛知県北東部、長野県南西部からの利用も念頭



2 大都市機能を分担

- リニア中央新幹線によって東京・名古屋・大阪の3大都市圏が結ばれ、世界にも類例のない巨大な都市集積圏域が形成
- 東京圏の中核機能のバックアップ場所として、同時被災の可能性の低さ、容易で確実なアクセスから、リニア岐阜県駅周辺は優位



3 岐阜県独自の魅力を発揮

- 都市部や海外から訪問客から行き先として選択されるためには、地域独自の魅力を発揮することが重要
- 「飛山濃水」といわれる日本らしい風景・景観や、1000年を超える伝統を持つ地場産業と文化といった、岐阜県独自の地域資源を地域づくりのモチーフとして積極的に採用



観光振興・まちづくり戦略

1 「東美濃ふるさと街道」 (新たな南北観光軸)

- 明知鉄道のリニア岐阜県駅直結の検討など沿線の観光資源開発
- 国道257号沿線の道の駅や地歌舞伎芝居小屋の活用
- 首都圏でのプロモーション など



2 「いにしえ街道」 (新たな東西観光軸)

- 街道沿線市町などで中山道、東山道などを活かした街道観光を振興
- 地域産業の要素を取り入れた観光資源開発
- ウォーキングをテーマにした観光商品開発
- JR在来線の輸送力を強化の働きかけ など



3 リニア中央新幹線の 観光資源としての活用

- 「リニアの見える丘公園」の整備
- 車両基地の一般公開の働きかけ
- 関係者の視察、一区間体験乗車を含む産業観光商品開発
- リニアミナモの活用 など



4 岐阜県全域への 観光振興効果の波及

- 県産品を活用した土産物などの商品開発・販路開拓
- リニア岐阜県駅、名古屋市ターミナル駅、岐阜羽島駅、北陸新幹線からの広域観光ルートの設定
- 海外誘客の推進
- 県民・市民全体のおもてなし意識の醸成 など

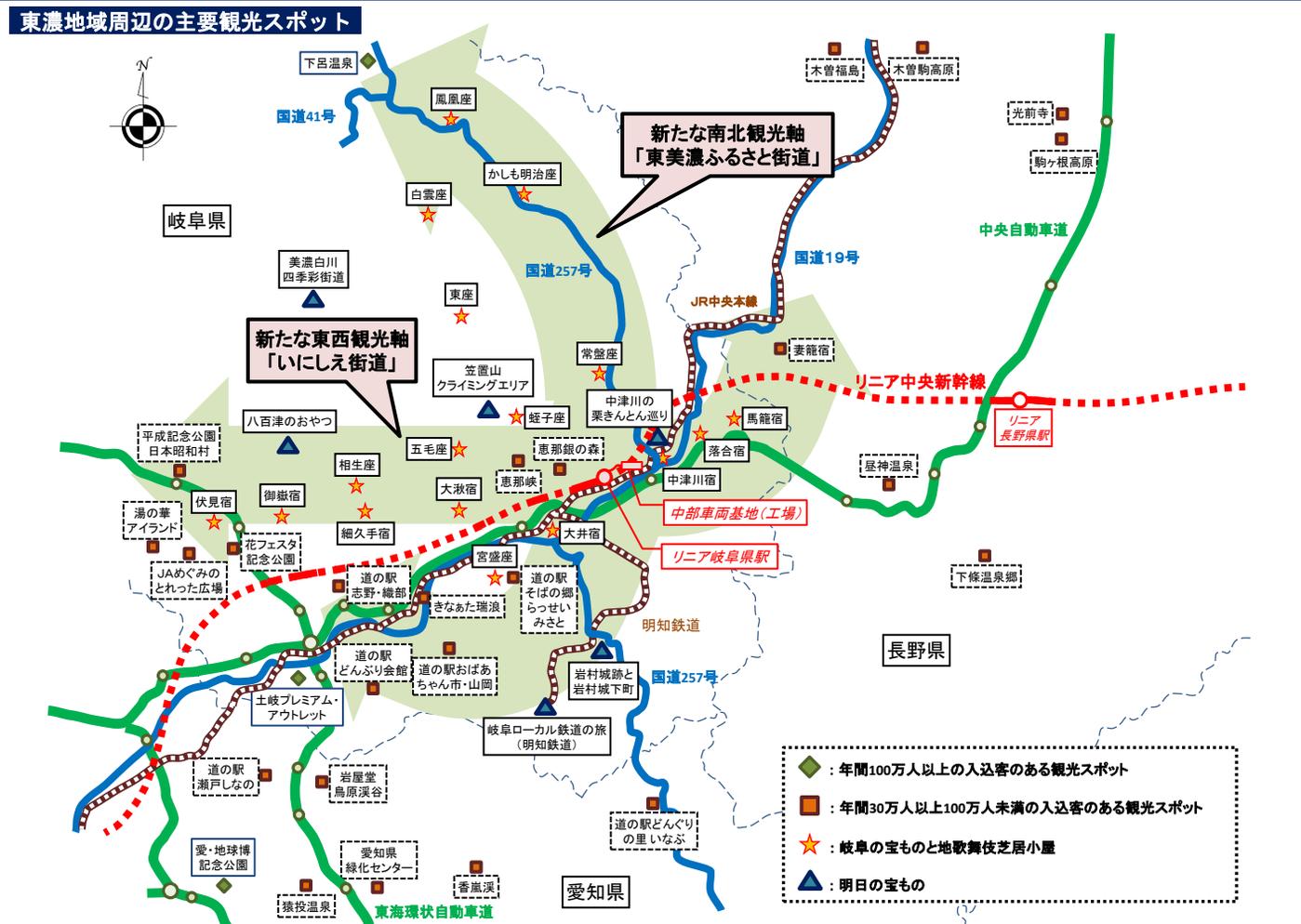
5 観光誘客と連携した 移住・定住人口の拡大

- 農業・林業などの体験観光と連携し、移住・定住候補地としてPR
- ニーズに合った環境の整備や空き家情報の提供などの条件整備
- 立地する企業の従業員の定住促進 など



6 空き家のオフィス活用

- 空き家をスモールオフィスとして活用できるよう、情報整理・提供
- ワンストップ対応できる体制整備
- 高速ネットワークなどの情報環境整備
- テレワークのニーズ調査 など



産業振興戦略

1 業務機能誘致、本社機能誘致

- 事業所の立地適地を調査し、受入れ体制を整備
- リニア岐阜県駅周辺に、業務系の業種・施設を誘致
- 駅周辺に本社機能に移転する企業に対して支援する制度を創設 など



2 行政中枢機能のバックアップ施設誘致、首都機能の一部移転

- 東京圏とアクセスが容易で、同時被災可能性が低いことをアピールし、バックアップ施設を誘致
- 国の動向を注視しながら、首都機能の一部移転を検討



3 工場誘致

- 東海環状自動車道、中央自動車道及びリニア中央新幹線が交差する「東濃クロスエリア」に工場を誘致
- 推進体制の構築
- 企業ニーズに応じた人材育成 など



4 車両基地の地域経済への効果波及

- リニア車両製造等関連企業の動向調査と進出支援
- 地元雇用のための人材の育成
- 車両基地従業員の定住促進
- 関連する大学・研究施設の誘致 など



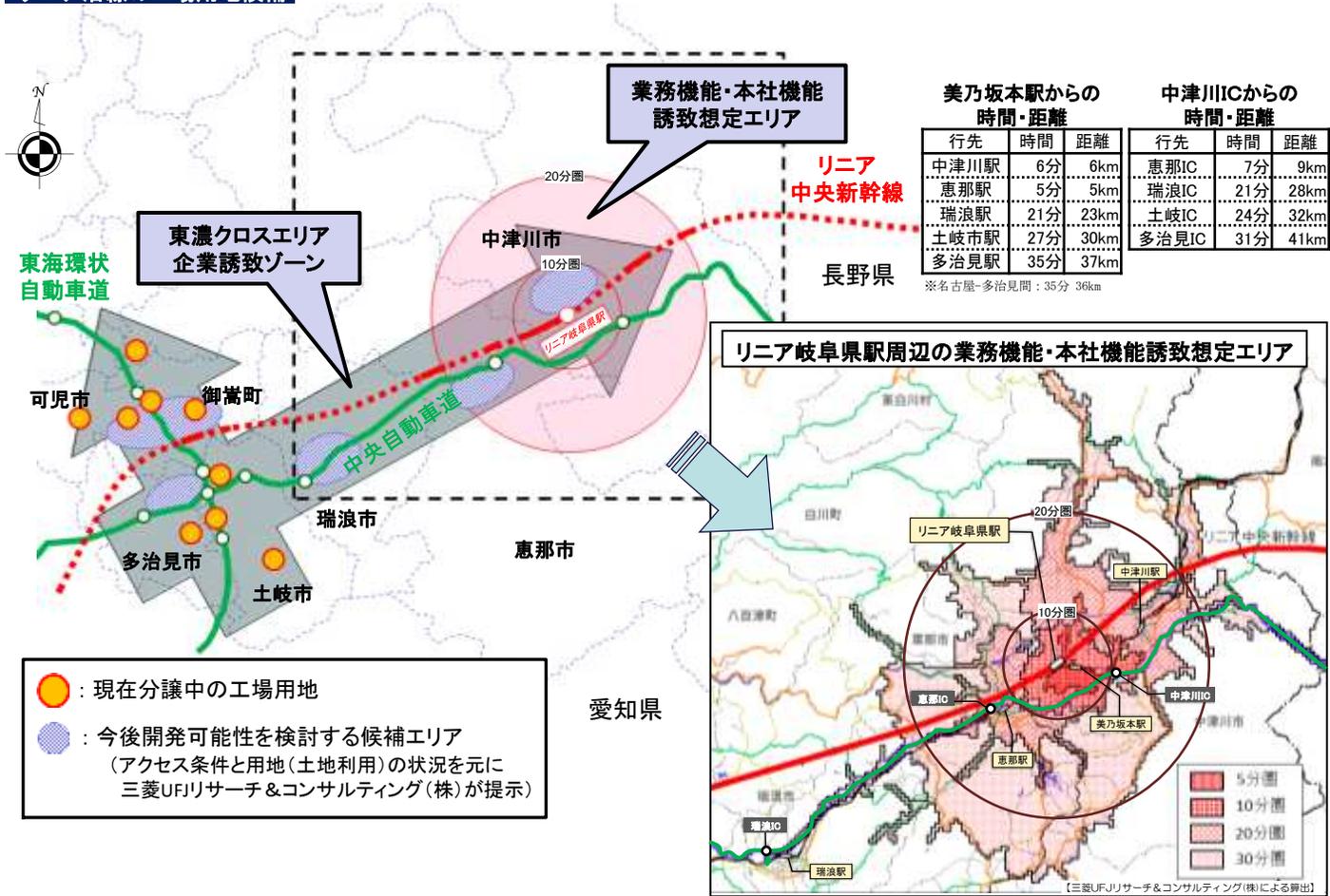
5 建設段階の経済効果波及

- 県内企業の建設工事受注機会の拡大
- 工事関係者の衣食住の需要の地域内での受け止め
- 建設現場を見学ポイントとして活用
- 建設発生土の適切な処分と、住宅・工業用地などへの有効活用



▲山梨リニア実験線で走行する新型車両「L0系」(写真提供:山梨県)

リニア沿線の工場用地候補



基盤整備戦略

1 駅及び駅周辺整備

- 駅を岐阜県独自の魅力を発信するランドマークとして整備
- 乗換えの機能を重視した駅・駅前広場の整備
(美乃坂本駅との連絡施設、美乃坂本駅の改修など)
- 必要な広さの駐車場の確保
- レンタカー施設、バス、タクシーの乗換えスペースの整備
- 観光案内所、物産販売店、飲食店の整備 など

2 アクセス道路整備

- リニア岐阜県駅から県内全域への道路アクセスを強化
- 2027年度の名古屋開業を見据えて整備する「**第一次整備計画道路**」、名古屋開業後の状況を見ながら整備する「**第二次整備計画道路**」、名古屋開業後の状況を見ながら中長期的な整備を検討する「**第三次整備計画道路**」と、優先順位を勘案し、段階に沿った整備を実施



3 県内鉄道交通ネットワーク強化

- リニア岐阜県駅への停車本数の確保、速達型列車の停車についての働きかけの実施
- 岐阜駅ー美乃坂本駅間の直通列車の運行、特急「しなの」の美乃坂本駅停車、在来線の輸送力強化などについての働きかけの実施
- 駅のバリアフリー化 など



4 リニア岐阜県駅からのバスネットワーク整備

- リニア岐阜県駅を、県内や長野県の観光地への長距離バス拠点として整備
- 観光目的と生活目的を分離したバスバス整備
- リニア開業に伴う路線バスネットワークなどの検討 など

